

乙 第 号

小松 雅代 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	今村 知明
論文審査担当者	委員	教授	飯田 順三
	委員(指導教員)	教授	佐伯 圭吾

主論文

The interaction effect between physical and cultural leisure activities on the subsequent decline of instrumental ADL: the Fujiwara-kyo study

高齢者の手段的 ADL 低下に対するスポーツと文化的趣味活動の交互作用－藤原京スタ
ディー

Masayo Komatsu, Kenji Obayashi, Kimiko Tomioka, Masayuki Morikawa, Noriko

Jojima, Nozomi Okamoto, Norio Kurumatani, Keigo Saeki.

Environmental Health and Preventive Medicine. 2019 24:71

論文審査の要旨

高齢者が ADL を維持するには、手段的 ADL (IADL) の低下予防が重要とされている。本研究は、大規模前向きコホート研究により、高齢者のスポーツ活動と文化的趣味活動の実施が、その後の ADL 低下に及ぼす独立した影響と、両者の交互作用の検討を行ったものである。

分析の結果、スポーツ活動や文化的趣味活動を行う高齢者は、IADL 低下のリスクが有意に低く、性、年齢、BMI、喫煙習慣、飲酒習慣、既往歴（心筋梗塞、高血圧等）、独居、うつ症状（GDS）、認知機能（MMSE）といった交絡因子と独立していた。また、両方の活動を実施しない者、どちらか一方を実施する者、両方を実施する者を比較した分析から、両方を実施することで IADL リスクがより低くなる有意な交互作用を認めた。

公聴会においては、審査者の質問である知的能動性に有意差がでない理由として MMSE などの認知症試験を調整因子としたことをあげられ的確に返答した。また、主要因子間に共線性はないかといった質問に対し、VIF により適切に確認しているとの回答があった。

本研究により高齢者における IADL の軽減が得られることが期待され、予防医学の発展に寄与するものと考えられる。

以上より、公聴会における質疑も適切であり学位を授与するに相応しい研究と考える。

参 考 論 文

1. ICD-11 における生活機能分類の意義－ICF と V 章の関連と統合－.
小松雅代、高井優奈、及川恵美子、森桂、小川俊夫、城島哲子、今村知明.
医療情報学. 2018. Nov;38(Suppl.): 210-213.
2. 詳細不明コードから見た ICD-11 への構造変更に関する一考察.
滝澤 雅美、小川 俊夫、今井 健、小松 雅代、及川 恵美子、阿部 幸喜、
中山 佳保里、森 桂、田嶋 尚子、今村 知明.
医療情報学. 2018. Nov;38(Suppl.): 796-799
3. Bodily pain, social support, depression symptoms and stroke history are independently associated with sleep disturbance among the elderly : a cross-sectional analysis of the Fujiwara-kyo study.
Kishimoto Y, Okamoto N, Saeki K, Tomioka K, Obayashi K, Komatsu M, Kurumatani N.
Environ Health Prev Med (2016) Sep.21(5):295–303.
4. 自立高齢者における歯の喪失と嚥下障害・血清アルブミン・全死亡との関連 藤原京スタディ.
岡本希、森川将行、小松雅代、車谷典男.
未病と抗老化 第 25 巻 28-33. 2016 年 8 月.
5. Health-related Quality of Life (HRQOL) Decreases Independently of Chronic Conditions and Geriatric Syndromes in Older Adults With Diabetes : The

Fujiwara-kyo Study.

Nezu S, Okamoto N, Morikawa M, Saeki K, Obayashi K, Tomioka K, Komatsu
M, Iwamoto J, Kurumatani N.

J Epidemiol .2014 May;24:4:259 -266.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに疫学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年3月5日

学位審査委員長

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 飯田 順三

学位審査委員(指導教員)

疫学

教授 佐伯 圭吾